

2021年6月29日

株式会社 ミライト・ホールディングス

【株式会社ミライト・テクノロジーズ】

国土交通省中部地方整備局が建設する「中部インフラDXソーシャルラボ」、
「中部インフラDXセンター（人材育成センター）」事業を受託受注
～インフラ分野におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進に寄与～

株式会社ミライト・ホールディングスのグループ会社である株式会社ミライト・テクノロジーズ（本社：大阪市西区、代表取締役社長：遠竹 泰、以下、ミライト・テクノロジーズ）は、国土交通省インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（以下、DX）推進において、国土交通省中部地方整備局（以下、中部地方整備局）が建設する、中部地方整備局の「中部インフラ DX ソーシャルラボ」及び「中部インフラDXセンター（人材育成センター）」事業を受託しました。

建設現場では、担い手不足、災害対策、インフラ老朽化の進展等の課題が山積みです。また、社会経済情勢の変化としては、技術革新の進展（Society5.0）、新型コロナウイルス感染症に対応する「非接触・リモート化」の働き方、行政デジタル化の推進等が急務であり、インフラ分野においてもデジタル化・スマート化を強かに推進する必要があります。

このような中で、国土交通省では、インフラ分野のDXを「社会経済状況の激しい変化に対応し、インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革し、インフラへの国民理解を促進すると共に、安全・安心で豊かな生活を実現」と明言しています。この基本理念を具現化し、全国に普及・展開する目的で、各地方整備局に実験環境やフィールド整備、3次元データなどを活用した新技術の開発や導入促進、これらを活用する人材の育成や施設整備を行う事業を開始しました。

今回、当社では、「中部インフラ DX ソーシャルラボ（名古屋市中区三の丸）」及び「中部インフラDXセンター（名古屋市東区大幸南）」に対してコンセプト企画、レイアウト設計、DX 商材の活用と施工、及び映像プロモーション製作等を元請会社として受注しました。そして、2021年3月にはこれらの施設を完成し、5月25日には中部インフラDXセンターの開設式が行われ無事に運用開始となりました。

今後、当社は社会インフラ、教育環境、製造業、医療現場、そのほか様々な分野における社会のDX 推進に貢献していきます。

なお、中部インフラ DX ソーシャルラボ、「中部インフラDXセンター(人材育成センター)」事業の概要は別記の通りです。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ミライト・テクノロジーズ
ソリューション事業推進本部 東日本事業部
TEL: 03-5496-7004
URL: <https://www.miratec.co.jp/>

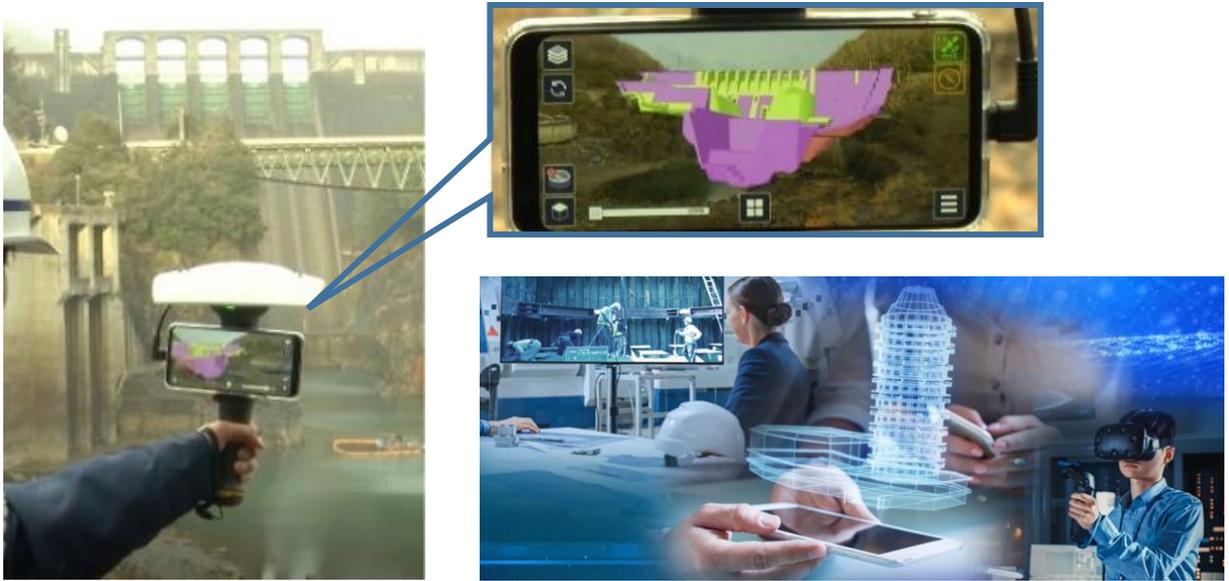
【本件に関する報道機関からのお問い合わせ先】

株式会社ミライト・ホールディングス
広報室
TEL: 03-6807-3120
FAX: 03-5546-2967
URL: <https://www.mirait.co.jp/>

記

中部インフラ DX ソーシャルラボ、中部インフラDXセンターの概要

建設現場のBIM/CIMを核として最新デジタル技術を活用し、DX ソーシャルラボ、DX センター（人材育成センター）の2か所の施設に対して、(1)から(5)のDXを実体験できる環境



- (1) 3Dデータに時間軸を加えた4D化の実現
- (2) VRによるバーチャル空間内での疑似体験
- (3) ARを使用した施工前の整合性確認
- (4) ウェアラブルカメラによる遠隔臨場
- (5) 建設機械の遠隔操作を体験出来る設備

当社は、これらの構築に対して企画立案、設計段階から運用開始までを携わり、インフラDXの推進に対するコンサル実績と将来性ある技術（VR、AR等）を得ました。

※BIM/CIM・・・建築、土木分野における3次元のデジタルモデルに設備など属性データを追記し、調査、設計、施工、維持管理まで一連管理を目的としたデータの総称。Building Information Modeling/ Construction Information Modeling or Management の略。

※AR・・・・・・拡張現実。Augmented Reality の略。

※VR・・・・・・仮想現実。Virtual Reality の略。

以上